

群桐グループ  
2016年発行 環境活動報告書



*Environmental report*

# Contents

## 目次

### コーポレートデータ

環境方針	2
会社紹介 (株)群桐産業	3
群桐エコロ(株)	5
新施設紹介	7

### マネジメント

コンプライアンス	9
環境組織図	11
リスクマネジメント	12
財務データ	13

### 社会報告

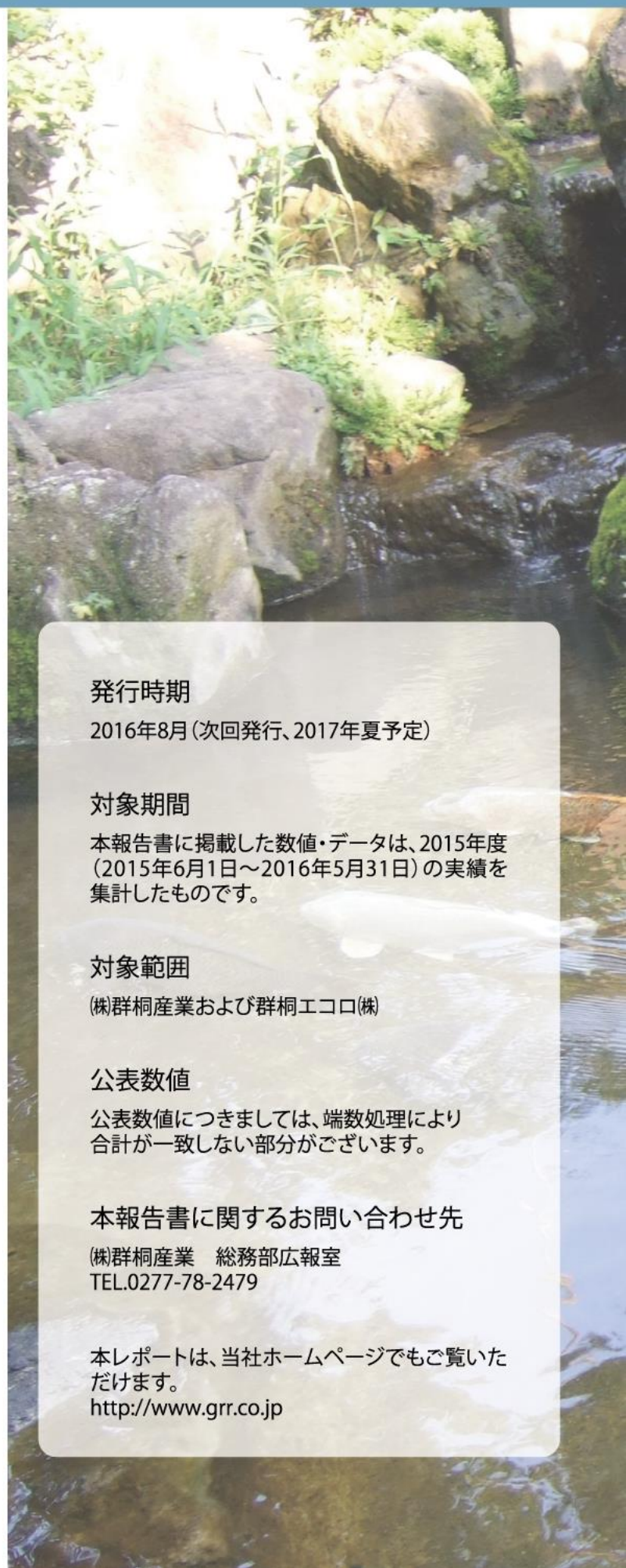
労働環境の向上	15
地域社会との関わり	17
新社屋建設	19

### 環境と安全

環境目標とその実績	21
環境への主な取組	23
大気環境測定結果	24
安全対策	25

### その他

おわりに	26
------	----



#### 発行時期

2016年8月(次回発行、2017年夏予定)

#### 対象期間

本報告書に掲載した数値・データは、2015年度(2015年6月1日～2016年5月31日)の実績を集計したものです。

#### 対象範囲

(株)群桐産業および群桐エコロ(株)

#### 公表数値

公表数値につきましては、端数処理により合計が一致しない部分がございます。

#### 本報告書に関するお問い合わせ先

(株)群桐産業 総務部広報室  
TEL.0277-78-2479

本レポートは、当社ホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.grr.co.jp>



群桐グループはISO14001の  
認証を取得しています。



株式会社 群桐産業  
群桐エコロ 株式会社  
環境総括責任者

群桐グループ会長  
山口 茂

### 基本理念

当社は、全ての事業活動において、私たちが出来る事は、人類が生きていくための環境を守り整えることであることを深く認識し、地域・顧客・パートナーとの信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与します。

### 基本方針

当社は、産業廃棄物(特別管理含む)の収集運搬及び中間処理、廃油の再生処理を主な業務としていることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。

事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に把握し、同時にこれらが係わる環境関連の法律、規制、協定の要求事項を明確にし、全社及び各部門毎に環境目的・目標・管理計画を定め、全員で取り組み、環境保全活動の継続的な改善及び質の向上に努めます。

事業活動、製品およびサービスに係わる環境関連の法律、規制、協定を遵守し、さらに地域活動との協調により一層のリスクマネジメントに取り組みます。

また、お客様や関係業者地域社会や国との良好なコミュニケーションのため、積極的な情報開示に取り組みます。

環境保全と汚染防止の重要性を認識し、事業活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち以下の項目を環境管理の重点テーマとして、環境汚染の防止に取り組みます。

循環型社会に適合した廃棄物の回収及び再生処理により

(1)資源保護・再使用・再利用に配慮した製品を提供します。(省資源)

環境型社会を目指す事業活動として

(2)エネルギーの効率的利用をします。(省エネ)

(3)廃棄物の削減と適正処理とともに100%リサイクルの達成を目指します。

(4)環境影響の大きい廃棄物の焼却について、二次的な環境汚染を防ぎ、設備の適正管理を行います。

定期的に内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの見直しと自主管理の維持・向上に努めます。

環境教育、社内広報活動などを実施し全社員の環境方針の理解を図るとともに、協力企業構成員にも伝達し、環境に関する意識向上を図ります。

この環境方針は一般に公表します。

### 産業を支え、地球環境を守る



## 株式会社 群桐産業

#### 【主な事業内容】

- 産業廃棄物収集運搬(低濃度PCB廃棄物含)
- 廃油回収及び販売
- 汚泥、廃油及び医療系廃棄物焼却処分

#### 【従業員数】

84名(2016年4月現在)

#### 【売上高】

25億9,309万円(2015年度)

群桐グループ本社及び営業部門。  
広域的に許認可を有し、お客様から廃油をはじめとする産業廃棄物を回収します。  
また、焼却プラントでは医療系廃棄や廃プラスチック類、汚泥や塗料、水溶性廃油などを焼却処理しています。  
焼却処理後に発生する飛灰と燃え殻は、グループ会社の群桐エコロ(株)に熔融リサイクルを委託しています。  
グループ全体の営業窓口及び、廃棄物の運搬から処理業務までの全般を担っています。



事務所外観

会社名 株式会社 群桐産業  
代表者 濱屋 博  
資本金 6,000万円  
住所 群馬県太田市藪塚町3201  
連絡先 TEL 0277-78-2479/FAX 0277-78-5084  
E-mail info@grr.co.jp  
URL <http://www.grr.co.jp>



プラント外観(敷地面積 6,000㎡)

社長メッセージ

## 安全・環境に配慮したシステムで よりよいサービスをお届けいたします

(株)群桐産業 代表取締役  
濱屋 博



### 2015年度を振り返って

2015年度は群桐グループの一つの要ともいべき再生重油市場において、大きな変動がありました。具体的には世界的な原油過剰供給による原油価格の下落に影響を受け、再生重油も過剰供給状態に陥り、史上まれにみる価格競争に突入しました。再生重油原料調達を使命とする群桐産業としては、潤滑油等の鉱物系廃油の買い取り価格について排出者様への説明を尽くしご理解をいただきながら、原油の仕入れ価格を抑えつつ、社内的には最大限に無駄を省き仕事の高効率化を推進し、永年にわたり定着している廃油リサイクルシステムの崩壊を防ぐべく対応してまいりました。今後も重油の市場は不透明感がぬぐえない状況下にあります。業界情報の細かな収集と分析を継続し、なお一層の努力を惜しまぬ覚悟です。

もう一つの要に群桐エコロで製造している「サーブルオール(人工砂)」の安定的な販売があります。群桐グループが一社完結型の処理フローを守り続けるために、引き続き、野立型太陽光発電所の防草材としての活用等を提案推進しつつ、建設資材としての活用についても積極的に推し進めていく所存です。

最後に、三つ目の要として、2016年3月に環境大臣認定を取得した群桐エコロの低濃度PCB廃電気機器無害化処理を最大限生かし、営業部一丸となり戦略を練り、情報収集を怠らず処理委託獲得増大に向けて邁進する所存です。

以上の三つの要の業務をバランスよく遂行することにより、群桐グループが目指す環境と経済の共存を図り、地球にやさしい企業としての確立を目指します。



# 地球に優しく、共に生きてゆく企業であり続けます



### 【主な事業内容】

- 廃棄物焼却溶融処理及び人工砂製造販売
- 廃油の油水分離処理及び再生重油販売
- 低濃度PCB廃棄物無害化処理

### 【従業員数】

63名(2016年4月現在)

### 【売上高】

21億2,338万円(2015年度)

群桐グループ施設維持管理部門。

(株)群桐産業がお客様から回収または収集運搬業者から持ち込まれた廃油を、自社システムでリサイクル処理し再生重油として販売しています。リサイクルできない廃油やその他の産業廃棄物は、焼却溶融処理して溶融固化物から人工砂を製造。アスファルトの下に敷く路盤材やコンクリート骨材その他の建設土木資材の用途で有効利用されています。

全国でも希少な焼却溶融施設を擁し、最終処分場として(株)群桐産業からの燃え殻も処理します。環境大臣の認定を受けて、低濃度PCB廃棄物の無害化処理を行っています。

会社名 群桐エコロ 株式会社

代表者 山口 博

資本金 2,000万円

住所 群馬県太田市新田大町600番26

連絡先 TEL 0276-55-0500/FAX 0276-55-0501

E-mail info@grr.co.jp

URL <http://www.grr.co.jp/ecologista/>



事務所外観



群馬ハイブリッドクリーンセンター(敷地面積 34,667.71㎡)

社長メッセージ

## 状況の変化に対応し、 社会の要求に応える

群桐エコロ(株) 代表取締役  
山口 博



### 「繰り返す～進化する」

2015年は、「変動」と「忍耐」と「前進」の年でありました。特に原油価格の下落によってもたらされた当グループ及び再生重油業界への悪影響は非常に大きいものでありました。また資源価格の下落の影響などを受けて某大手商社も赤字決算をするという事態もありました。一方で業績が好調な業界もありましたし、外国人観光客のおかげで潤った業界もありました。いつの世でもそうですが、悪い業界もあれば良い業界もあるということです。世界経済の変動など我々の力が到底及ばない事柄によって私たちは一喜一憂させられることがあります。そこはただ諦めるのではなく、しぶとく、明るい未来を信じて与えられた職責を全うし、また前進するために考えながらチャレンジし続けていきたいものです。

低濃度PCB廃棄物の処理についてですが、新規に固定床炉を設置して環境大臣の認定を受けることができました。これで低濃度PCB廃棄物に係る処理体制が整いましたので、あとは効率的な運用体制を構築して、社会に貢献するとともに業績の向上を目指していききたいと思います。

2016年は、世の中の変化のスピードがより速くなり、また思いもよらない事が次々と起こることが予想されます。私たちは、しっかりと足元を見つめながら、また同時に周囲を見渡しなが、時には早く、時にはゆっくりと、状況に応じて着実に進んでいきたいと思ひます。



## 新施設紹介

### 低濃度PCB廃棄物専用大型固定床炉(群桐エコロ株)



群桐エコロ株(群馬ハイブリッドクリーンセンター)では、トランス・コンデンサ等の金属筐体を処理可能な固定床炉が完成し、平成28年3月1日に環境大臣の認定を取得して、同年4月より稼働しました。これにより国が推進しているPCB廃棄物処理の促進に寄与し、地域社会に貢献するとともに関東近辺では他社との大きな差別化が図れ、群桐グループの強みとなっています。



固定床炉の特徴として、その許容サイズが挙げられます。平成28年5月現在において、国内最大級のサイズとなり、解体コストを削減するなどして、排出事業者の負担を軽減することができます。



現在は、低濃度PCB廃棄物(廃電気機器等)の無害化処理を順調に進めています。

### 廃棄物専用保管庫(株群桐産業)

(株)群桐産業では昨年度、旧医療系廃棄物保管庫と旧油水分離施設跡地に新保管棟を建設いたしました。

保管棟の収容キャパシティは群馬ハイブリッドクリーンセンターの医療系廃棄物保管庫に匹敵し、廃棄物受け入れ作業の安全性の更なる向上と、適切な保管能力の確保により、より質の高いサービスを提供します。







# *Management* — マネジメント —

群桐グループは、すべてのステークホルダーの信頼に応え、環境と経済の共存を図るべくコーポレートガバナンスの強化と充実に努めています。



### ① コンプライアンス

#### コンプライアンス経営体制

群桐グループは、遵法意識の一層の強化充実を図り社会的信頼を確立するため、グループ全従業員の行動原則となる「群桐グループコンプライアンス基本方針」を制定するとともに、役員及び全従業員への日常行動の具体的な指針である「コンプライアンス・マニュアル」の配布や教育研修の実施等により、コンプライアンス意識の向上、徹底に努めています。

#### 行動基準

群桐グループは、廃棄物処理事業者としての社会性および公共性を有していることから、コンプライアンスにおいて法令遵守はもちろん、社会規範も厳しい基準を持って遵守することと認識しています。

常時掲げている理念「地域、顧客との信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与する」を達成し、お客様からの信用・信頼を基盤とする当グループがこれらを一層強固なものとしていくためには、役職員一人ひとりが従来以上にコンプライアンスを意識し、法令やルール、社会規範に則った行動を取るとともに、その行動を積み重ねることが重要です。

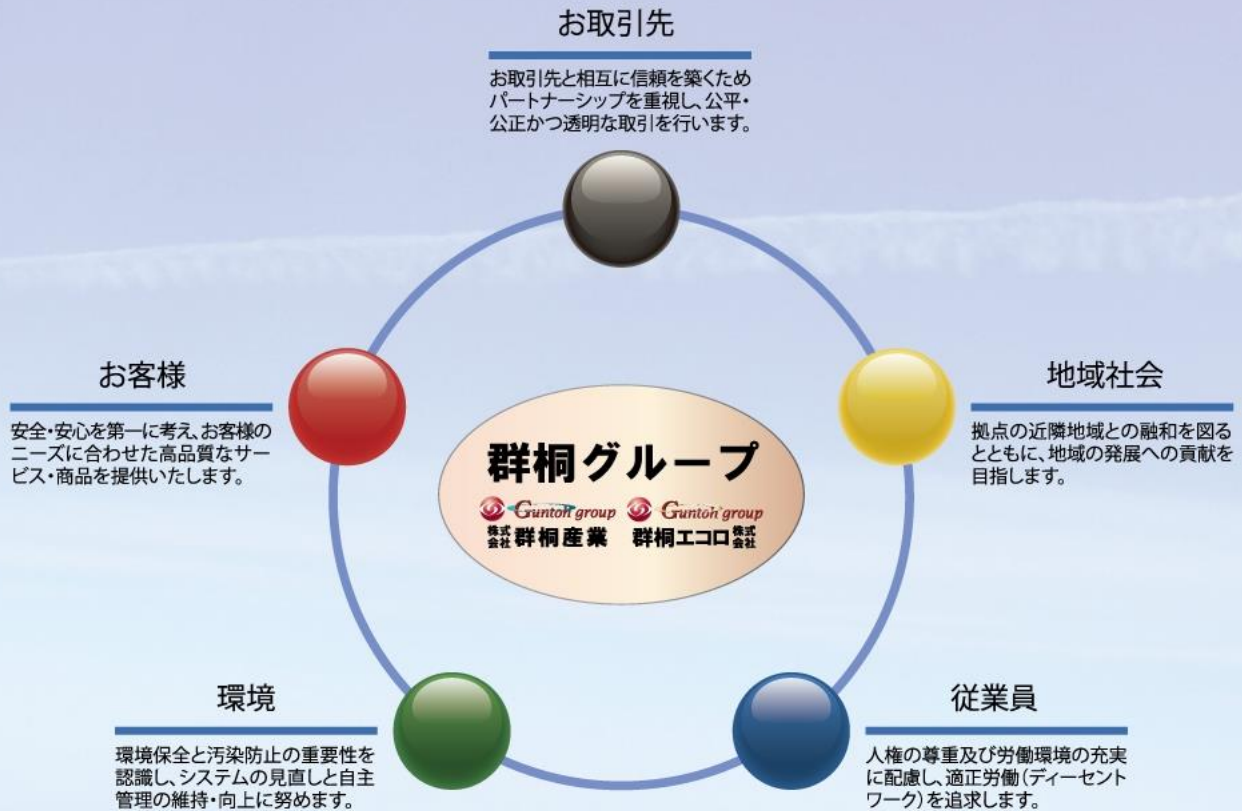
#### 監査体制

監査役監査について、各監査役は、監査役会を定期的を開催するとともに、取締役会その他の重要な会議へ出席するほか、グループ会社を含む業務および財産の状況の調査等を通じて、リスク管理をふまえた取締役の職務執行の監査を行っています。

内部監査については、内部統制システムの信頼性を確保するため、社内に内部監査部門を設置し、「内部監査規程」に基づき、適正な業務運営の維持とともに業務改善および経営の効率化をめざして実施しています。

会計監査については、当社と監査契約を締結している大島会計事務所が実施しています。これら監査役、内部監査部門および会計監査人は、監査計画や監査実施結果等について適宜情報交換を行うなど常に連携を図っています。

## 群桐グループコンプライアンス基本方針およびステークホルダーとの関わり



## ②コーポレート・ガバナンス

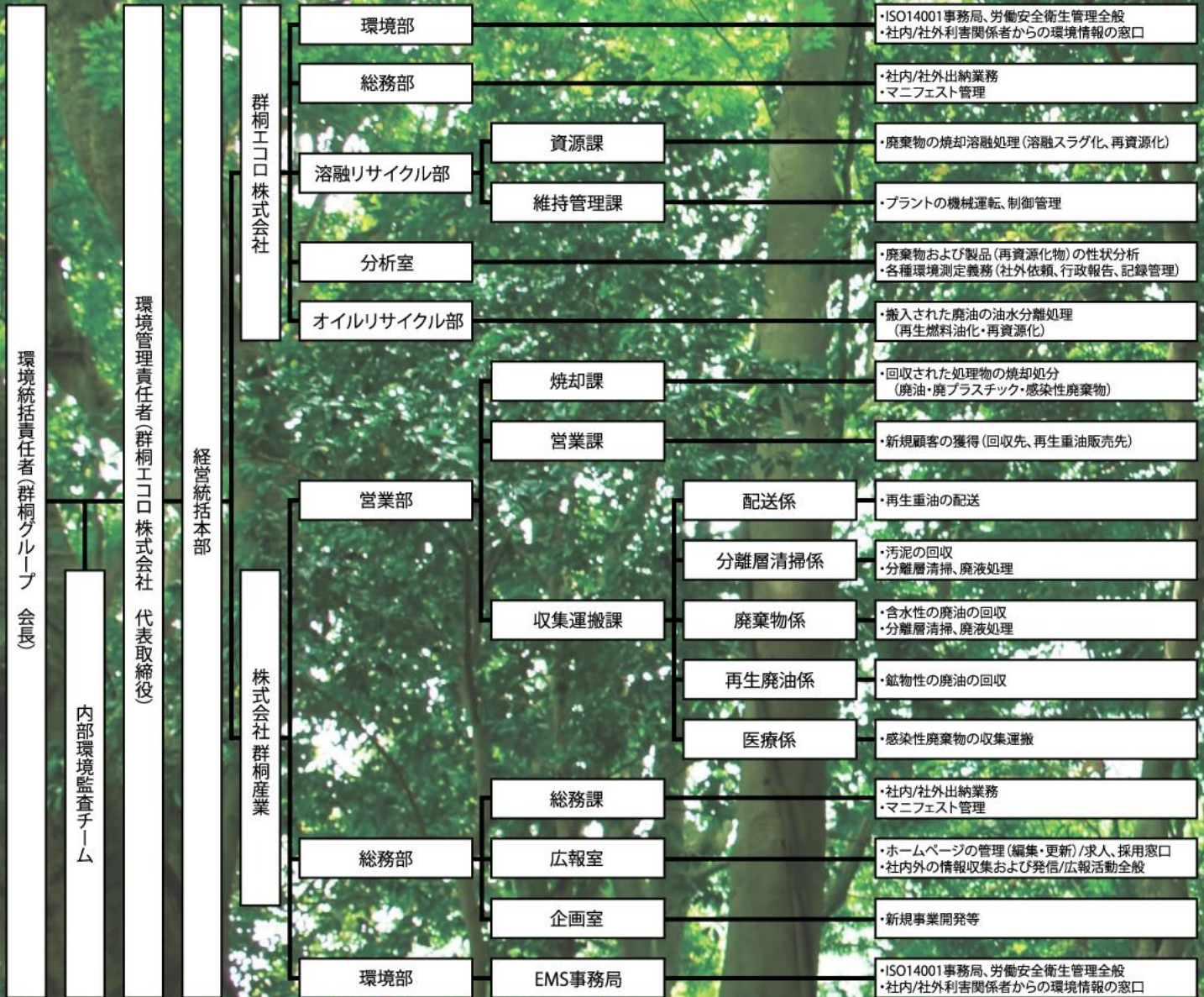
### 基本的な考え方

群桐グループは、「地球規模で考え、足元から行動する(Think Globally Act Locally)。」企業であることを心掛けており、お客様をはじめ、お取引先、従業員、地域社会等の全てのステークホルダーから評価、信頼される企業を目指しています。

また、経営監督機能の充実と、内部統制システムの整備によるリスク管理と説明責任の遂行、及びコンプライアンス徹底のための施策を通じて、公正で透明性のある企業活動を実現することを、コーポレート・ガバナンスの基本的な方針としております。

# Organization chart

## 環境組織図



当社の環境組織図は上図のようになっています。

群桐グループの会長を環境総括責任者とし、群桐エココ株の社長を管理責任者としています。また、各課の責任者は内部監査官としてEMS (環境マネジメントシステム) 事務局と共にチームを編成し、年1回の内部監査を実施しています。

EMS事務局は、環境部が主幹しており、環境管理責任者と共に環境活動における重要な役割を果たしています。

環境管理責任者は、主に法律関係や環境目的・目標・プログラム等に関わる業務の管理並びにその他業務の管理及び承認を行います。

環境総括責任者は、各種重要項目の承認並びに環境管理計画の見直しによる是正・改善を、環境活動が継続的かつ効果的に運用されるよう環境管理責任者に指示します。

### ①情報セキュリティ対策

群桐グループでは、機密管理を強化するために情報管理の徹底を図っています。情報システムのセキュリティは外部の専門業者に委託。また主にソーシャルメディア利用に関する情報発信においては、従業員向けのルール(ガイドライン)を策定し、独自判断でやって良いこと・承認が必要なこと等、行動基準を策定しています。また、社内のPCの取り扱いにおいてもセキュリティソフトの導入はもちろんのこと、定期的なデータのバックアップやパスワード設定、不審なメール対応などセキュリティの強化に注力しています。

これらは社員の教育研修においても重要視され、昨年の4月から新卒・中途問わず新入社員には必ず機密管理教育を開始。さらなるセキュリティ強化と従業員の意識向上を図っています。

また、私達は業務を通じてお客様の情報を入手しているため、現場においてもお客様の情報は処理業務として必要な情報以外は 1.見ない(見せない) 2.話さない 3.持ち出さない の「情報管理の三ない運動」を実施しています。

### ②労働安全マネジメントシステム

(株)群桐産業及び群桐エコロ(株)では両社それぞれに安全衛生委員会を設置し、安全対策及び安全衛生計画を立案し推進しています。安全衛生委員会では「労働無災害継続」を宣言し、経営層と従業員が一体となり重大な労働災害の防止や自然災害発生時の影響を最小限にする体制づくりなどに取り組んでいます。更に、リスクアセスメントによる設備の安全対策や災害防止対策を審議するとともに現場のパトロールを行い、ルール遵守の徹底や安全教育の実施により、安全に対する意識向上に努めています。

また、各安全衛生委員会事務局は、両社の安全会議の情報の共有に努めています。



### 群桐グループ売上高

#### 株式会社 群桐産業

平成27年6月1日～平成28年5月31日 (単位:千円)

売上高	2,593,093
-----	-----------

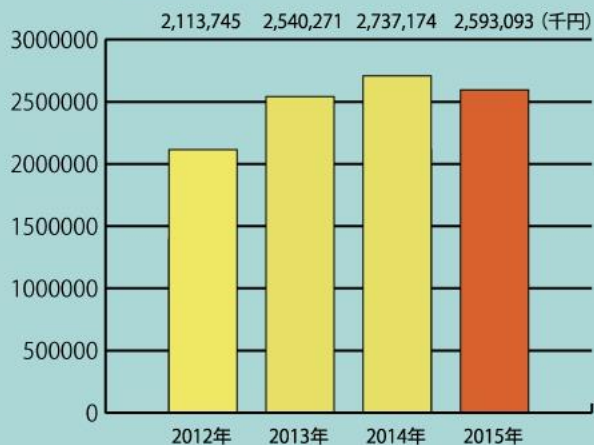
#### 群桐エコロ 株式会社

平成27年4月1日～平成28年3月31日 (単位:千円)

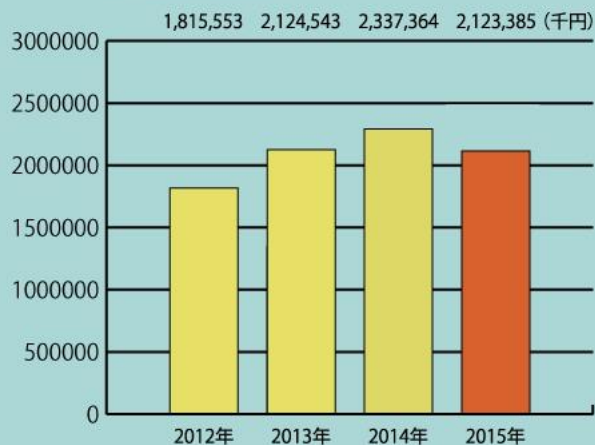
売上高	2,123,385
-----	-----------

### 売上高の推移

株式会社 群桐産業



群桐エコロ 株式会社



2015年度は(株)群桐産業・群桐エコロ(株)共に原油価格の下落の影響を受け、僅かながら前年度の売上を下回る結果となりました。

より詳しい財務諸表は弊社ホームページより産廃情報ネットにお入りいただき、ご参照いただければ幸いです。



群馬ハイブリッドクリーンセンター(群桐エコロ(株))の廃油荷降ろしスペース(左)とリサイクル施設(右)。再生重油の製造・販売は、(株)群桐産業より引継いだ群桐グループの中核を成す事業です。



## *Efforts to society* — 社会への取り組み —

群桐グループは、企業市民として地域社会へ貢献していくために従業員が一丸となってさまざまな取り組みをおこなっています。



# Improvement of working environment

## 労働環境の向上

### 働きやすい環境づくり

#### ◆福利厚生・各種手当の充実

群桐グループでは、常に全ての従業員にとって働きやすい職場環境を整えることを目指しています。事務所の禁煙化をはじめ育児休業や子供の看護休暇、セクシャルハラスメント対策等、特に女性の就業に配慮しています。

また、各種手当が充実しており、多くの資格が対象となる資格手当の他、扶養の親まで該当する家族手当や子供への教育手当などがあります。

更に昨年度より導入した完全週休二日制により、従業員が休日をより謳歌できるようになりました。



女性スタッフもいきいきと職務に励んでいます。

#### ◆社員の健康管理

群桐グループでは、年1回(プラント作業従事者は年2回)、社員を対象とした健康診断が実施されます。また、希望者は会社負担でインフルエンザの予防接種も受けることができます。

さらに、産業医によるカウンセリングも実施されており、これにより社員の健康障害の予防と共に、心身の健康が保たれています。



産業医による職場視察。今回新しく稼働した固定床炉に携わるスタッフの業務を視察しています。

### 社内コミュニケーション

#### ◆社員研修旅行

群桐グループでは毎年冬の時期に、(株)群桐産業と群桐エコー(株)の全社員で社員旅行に行きます。

宴会(忘年会)の席では永年勤続の表彰式が行われ、今回は6名の社員が該当し、表彰されました。

この旅行は、普段あまり顔を合わせる事の無い両社間の社員同士の大切な交流の場となっています。



2015年11月、新潟県月岡温泉にて。



## 多様な人材育成の推進

### ◆資格取得支援制度を通じた自己啓発の推進

社員一人ひとりがチャレンジ精神を持って自身の資質を高めるための自己啓発支援の一環として、業務に直結した資格の習得を目的とした資格取得支援を行っています。

具体的には資格取得に掛かる費用の無期限貸し付け及び定額返済制度が主となっており、これにより大型自動車免許等の高額で時間がかかるような資格(免許)であっても、働きながら無理なく取得することが可能となっています。



高額資格の代表格、大型自動車運転免許。ドライバーにとっては重要な資格です。

### ◆社内研修

群桐グループでは、各関連団体が主催するセミナーや研修会へ参加も積極的に推奨しています。

また、社員が講師を務める社内研修の他に外部より講師を招いて行う研修も取り入れています。



社員によるマイナンバー講習。

## 人材確保

### ◆新卒者の定期採用

群桐グループでは常に優秀な人材の確保に力を入れています。県内外の各所で開催されている合同企業説明会には積極的に参加し、会社見学や面接も随時受付けています。

また、会社独自の面接説明会も開催して、新卒者の採用に余念がありません。2016年4月には群桐産業・群桐エコロ併せて2名の新卒者が採用となりました。



合同企業説明会では学生一人ひとりに十分な時間を設け、会社説明をいたします。

# Involvement to society

## 地域社会との関わり



### 第32回 やぶ塚かかし祭り

1984年より続く太田市藪塚町の一大大祭りで、(株)群桐産業近くにある三島神社公園及びその周辺で開催。毎年10月初旬から中旬にかけて行われ、2015年(第32回)は10月3日～10月12日の期間。

群桐グループは地元企業として毎年協賛。

### 平成27年度 太田市サイエンスアカデミー (2015年7月28日)



太田市の児童がサイエンス(科学)への関心を高め、明日の太田を支える人材の育成を図ることを目的として開講されている太田市サイエンスアカデミー。

4回目の来場となる今年も、昨年に引き続き2班に分かれて約50名の児童(5年生と6年生)が群馬ハイブリッドクリーンセンターを見学。太陽が照りつける猛暑の中、廃棄物がリサイクルされる様子を学んでいきました。

### 車両寄贈 (2015年11月30日)



群桐グループは太田市が管理運営する「おま」2tトラックを一台寄贈しました。コンサートなど様々な用途に使用されるとのことでした。

群桐グループは今後も尚一層太田市の発



### 第12回東和新生会ビジネス交流会 参加 (2015年11月10日)



ヤマダグリーンドーム前橋で開催の東和新生会(東和銀行)主催のビジネス交流会に出展。製造業やサービス業、食品関連小売業など様々な業種がブースを出展する中、(株)群桐産業も群桐エコロ(株)で製造される人工砂サーブルオールを紹介・展示しました。興味を持った多くのお客様がブースにお越しになり、多くのPRができました。尚、今年(2016年)も出展を予定しています。

### 第11回アースデイin桐生2016 参加 (2016年4月24日)



群馬大学理工学部 桐生キャンパスにて開催の第11回アースデイin桐生2016に参加。屋内外で色々な屋台やイベントブースが設置される中、コンクリートの研究をされている小澤准教授と合同で群桐グループも出展。群桐エコロ(株)で製造される人工砂サーブルオールの展示やコンクリート二次製品の弾性実演を行ったりしました。今回も地元の方達との貴重な触れ合いをさせていただきました。

### 会社周辺美化活動(ごみ拾い)



「おた芸術学校」にパワーゲート(昇降機)付会場等へ移動の際の楽器の搬送、その他色々に尽力する所存でございます。



(株)群桐産業および群桐エコロ(株)では年1回の割合で「会社周辺美化活動」として、ごみ拾いを実施しています。早朝から実施されるこの活動は、地域の環境美化とともに社員の環境意識の向上に繋がっています。

## 新社屋建設

現在、群桐グループでは新社屋(本社ビル)を建設中です。2015年12月より着工し、2016年内には完成する予定となっております。完成後は(株)群桐産業及び群桐エコ(株)の営業部や総務部を移管し、またグループを統括する機能を担います。

### ◆地鎮式(2015年12月11日)

群桐グループは本社屋建設の地鎮式を執り行いました。式典は立正佼成会桐生教会様の全面的な協力のもと進められ、来賓には太田市長の清水聖義様をはじめ日頃からお世話になっているお取引銀行様などのご臨席を賜りました。

本社屋建設にあたり、社員一同完成を楽しみにしています。



四方清めの儀。北東(鬼門)・東南・南西・西北の四方を塩や酒などでそれぞれ清めます。



群桐グループ 山口茂会長による謝辞。



式後の祝宴。手打ちそば「忠治庵」にて。

### ◆工事進行の様子



完成予想図(左)と最新(8月現在)の工事進行の様子(右)。着工から半年以上が経ち、現在4階部分を建設中。左側部分の特徴的な形も見えてきました。日々順調に完成に近づいています。



# *Environment and safety* — 環境と安全 —

群桐グループは、事業活動にあたり地球環境の保全と従業員の安全・健康の確保に努め、企業としての使命を果たすために注力しています。

# Environmental goal and track record

## 環境目標とその実績

### ①再生重油販売量

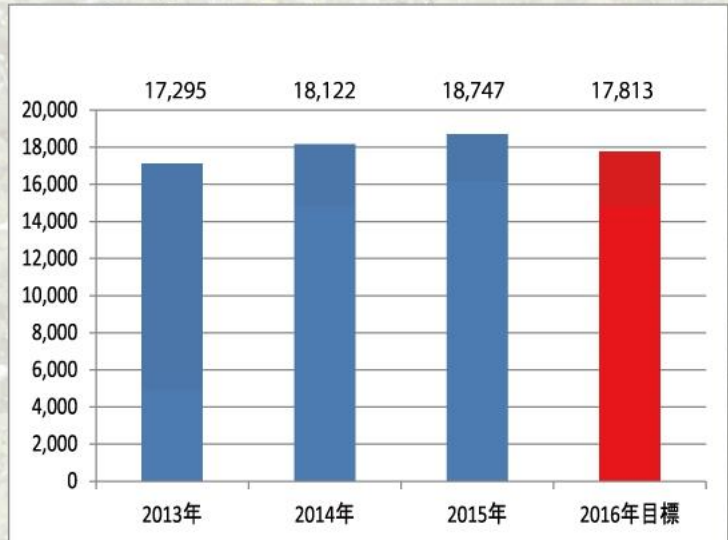
「循環型社会及び資源の有効活用に配慮した製品の提供」として廃油の燃料化を推進しています。これにより、新たな化石燃料の消費を抑制し、省資源に寄与します。

2015年度は、17,640KLの目標値に対して18,747KLとなり、プラス1,107KLで達成率は106%となりました。

独自の顧客管理システムが機能するとともに、関係部署の連携もより深まり、原料の回収現場での作業も効率的になりました。関係者の努力が実った結果であります。

2016年度の目標は少し低く設定していますが、これは原料の回収量及び再生重油の製造量と、新たに稼働を開始した固定床炉での再生重油の消費の見込みを相殺した数値であります。目標の達成に向けて全社を挙げて取り組んで参る所存です。

13-15年 再生重油販売量 (KL)



### ②CO<sub>2</sub>排出量削減

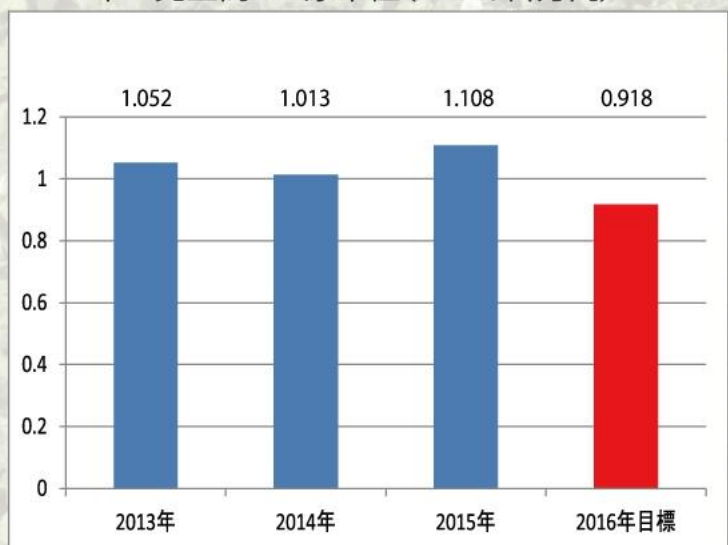
「地球温暖化(気候変動)防止活動」として、売上高CO<sub>2</sub>原単位排出量の削減に努めています。

2015年度は、0.918t-CO<sub>2</sub>の目標値に対して、1.108t-CO<sub>2</sub>となり、目標を達成することが出来ませんでした。

最大の要因は、原油価格の下落に起因する再生重油の販売価格の下落によって売上高が低迷したことでした。

2016年度の目標は厳しく設定しましたが、新たに稼働を開始した固定床炉による売上高の増加に注力するとともに、これまでと同様にGPSを活用した無駄のない車両の運行、設備機器の予防保全による安定稼働、廃棄物処理に伴う廃熱発電等について継続して取り組みます。また省エネについて様々な活動を推進して目標を達成したいと思います。

13-15年 売上高CO<sub>2</sub>原単位 (t-CO<sub>2</sub>/百万円)



### ③ 廃棄物焼却量

循環型社会を目指す事業活動として、受け入れた廃棄物の焼却処理後の燃え殻を溶融処理し、または廃棄物を直接溶融処理して、溶融固化物を生産し、これを加工して建設資材(人工砂)と金属資源をそれぞれ再利用することで、埋立処分をなくす取り組みを推進しています。したがって当グループでの廃棄物の焼却溶融処理量の増加は、循環型社会の構築に寄与します。

2015年度は、69,089.35トンの目標値に対して65,817.38トンとなり、95.26%の達成率で前年に引き続き未達成となりました。要因としては、処理する廃棄物の高発熱量化があげられます。これは昨年と同様の傾向にあります。施設稼働率の向上やその他の取り組みで補うことができませんでした。2016年度は新規施設の稼働を加味して高い目標値を設定しましたので、全社を挙げて目標の達成に向けて取り組んで参ります。

13-15年 廃棄物焼却量 (t)



### ④ 水の使用量削減

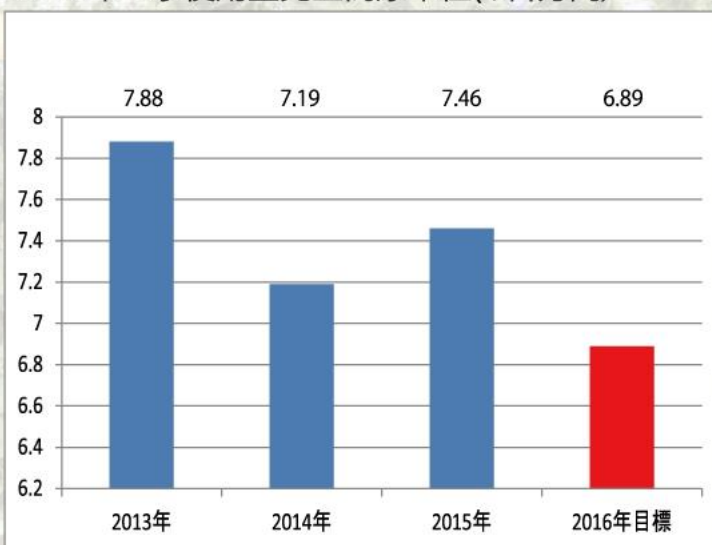
エネルギーの効率的な利用(省エネ)として、売上高原単位で水(上水)の使用量の削減に努めています。

2015年度は、7.80t/百万円の目標値に対して、7.46t/百万円となり目標を達成し、達成率は104%となりました。

大幅に目標を達成した昨年に引き続いての目標達成となりましたが、目標値の設定の精度が良くなかったと言えます。

2016年度については、雨水の有効利用や節水の取り組みを継続することとしながら、新規施設の稼働による売上高の増加を考慮して目標値を設定しました。

13-15年 水使用量売上高原単位(t/百万円)



# Environmental initiatives

## 環境への主な取り組み

### ISO維持審査 (2015年8月3日～6日)



期間中は審査員による書類審査や社員インタビュー、作業立会審査等が行われました。



群桐グループはISO14001 認証取得をしています。今夏も審査機関 (SGS ジャパン株式会社) による維持審査が実施され、問題無く終了いたしました。

### 太陽光パネル設置 (株群桐産業)



(株)群桐産業では、焼却プラントの倉庫棟及び廃棄物専用保管庫の屋根に合計216枚の太陽光パネルを設置いたしました。これにより、自然エネルギーの活用を図ります。

### グリーンカーテン



群桐グループ各社では、毎年ゴーヤ等のグリーンカーテンを実施しています。

2015年度は(株)群桐産業ではゴーヤを、群桐エコロ(株)ではゴーヤとカボチャを植えて省エネに取り組みました。今年にはトマトやピーマンも加えて実施いたします。

### 排ガス無害化処理システム



排ガスは、通常の基準値よりもさらに厳しい自社基準を設け、数値を下回るよう常に気を配っています。

(株)群桐産業と群桐エコロ(株)の各プラントでは、排ガスを適切に管理しています。

二次燃焼室で未燃分を分解後、急速冷却。その後、消石灰による吸着・バグフィルタでのろ過を経た後、大気に放出されます。



# Measurement of air environment

## 大気環境測定結果

群桐グループでは、周辺環境への影響を常に把握するため、ダイオキシン類やばい煙等の測定を行い、その結果をホームページで公開しています。

### ◆大気環境測定結果(直近値)

測定:平成理研 株式会社

#### 1. ダイオキシン類

対象施設:株式会社 群桐産業 焼却施設

資料採取日:2015.9.28 証明書発行日:2015.10.26

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.97 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	5 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	4.0 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
焼却灰	0.030 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	0.28 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g

対象施設:群桐エコロ 株式会社 焼却溶融施設

資料採取日:2015.8.28 証明書発行日:2015.9.17

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.011 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	0.1 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	0.1 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
焼却灰(溶融固化物)	0.000078 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	0.65 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g

#### 2. ばい煙(ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素)

対象施設:株式会社 群桐産業 焼却施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日:2015.9.28 計量証明発行日:2015.10.16	資料採取日:2016.4.26 計量証明発行日:2016.5.16		
ばいじん濃度	0.001 g/m <sup>3</sup>	0.001 g/m <sup>3</sup> 未満	0.15 g/m <sup>3</sup>	0.12 g/m <sup>3</sup>
硫黄酸化物量(K値)	0.084 m <sup>3</sup> /h	0.080 m <sup>3</sup> /h未満	8.0 m <sup>3</sup> /h	6.4 m <sup>3</sup> /h
窒素酸化物換算濃度	49 ppm	64 ppm	250 ppm	200 ppm
塩化水素換算濃度	75 mg/m <sup>3</sup> 未満	76 mg/m <sup>3</sup> 未満	700 mg/m <sup>3</sup>	560 mg/m <sup>3</sup>

対象施設:群桐エコロ 株式会社 焼却溶融施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日:2016.2.12 計量証明発行日:2016.2.23	資料採取日:2016.4.8 計量証明発行日:2016.4.27		
ばいじん濃度	0.002 g/m <sup>3</sup>	0.002 g/m <sup>3</sup>	0.04 g/m <sup>3</sup>	0.02 g/m <sup>3</sup>
硫黄酸化物量(K値)	0.24 m <sup>3</sup> /h未満	0.20 m <sup>3</sup> /h未満	17.5 m <sup>3</sup> /h	6.0 m <sup>3</sup> /h
窒素酸化物換算濃度	49 ppm	86 ppm	250 ppm	150 ppm
塩化水素換算濃度	140 mg/m <sup>3</sup>	57 mg/m <sup>3</sup> 未満	700 mg/m <sup>3</sup>	150 mg/m <sup>3</sup>

# Measure for safety

## 安全対策

### 群桐グループ 防災の日 (2016年5月21日)



今回の講習は、映像による防火防災講習と心肺蘇生やAEDによる実技を併せた救急救命講習となりました。



群桐グループでは、毎年5月31日を「群桐グループ防災の日」と制定しており、太田市消防による安全教育講習を行っています。

今年は太田市消防署の体育館を会場として行われ、ほぼ全従業員が参加し講習を受けました。

### 粉塵対策研修 (2015年12月18日)



群桐エコロ(株)ではプラント作業スタッフを対象とした粉塵対策研修を実施いたしました。

今回の研修は、(株)フジテックス 環境事業部様及びスリーエムジャパン(株) 安全衛生品事業部様のご協力のもと行われ、粉塵リスクの知識や適切な防塵マスクの選定、防塵マスクの装着指導等を勉強いたしました。

群桐エコロでは人工砂加工施設周辺をはじめ、数カ所粉塵が舞う環境にあるため、今回の研修を生かし従業員の安全に一層気を配る所存でございます。

### 非難誘導及び消火訓練



群桐グループ各社では年1回、有事に備え非難誘導訓練及び消火訓練を実施しています。

処理プラントでは廃油を中心とした様々な危険物を取り扱っているため、従業員は毎年の消防訓練で迅速な行動が取れるよう繰り返し訓練を行っています。

### 構内セキュリティ強化



群桐エコロ(株)では多くの防犯カメラを設置しており、構内のみならず場外道路も監視しています。



群桐グループでは、お客様から廃棄物をお預かりしている為、特に構内セキュリティに力を入れています。

警備員の常駐及び巡回、そして各所に設置された防犯カメラにて、従業員の少なくなる夜間の警戒を一層強めています。

### 編集方針・後記

本レポートは、群桐グループに関係する全てのステークホルダーの皆様へ、当グループ全体の環境保全に向けた活動、ならびに社会に配慮した活動について深く理解していただき、より一層の信頼をいただくことを目的に編集いたしました。

報告にあたっては、ステークホルダーの皆様にお伝えしたい事項を重点的に取り上げることで、当グループの活動を理解しやすい紙面づくりに努めました。

本レポートは「経営」「社会」「環境」の3つの側面に特化して形成されています。群桐グループのその他の活動・取り組みにつきましては、弊社ホームページをご参考いただければ幸いです。

群桐グループは、産業廃棄物処理業者としてこれからも社会に貢献し続けていくことを目指します。また、常に新しい試みを模索し、より環境に優しい処理方法を追求していく所存でございます。

株式会社 群桐産業 総務部広報室 家富 和之

### 環境管理責任者より

2015年も環境マネジメントシステムが安定的かつ有効に機能しました。「継続的な改善」は企業活動には欠かせません。今後もPDCAサイクルを止めることのないように日々取り組んで参りたいと思います。また、ISO 14001の2015年改定に伴ってJIS Q 14001:2015が発行されていますので、改正のポイントをしっかりと押さえながらシステムの移行を速やかに進め、さらに進化したシステムの構築を目指したいと考えます。

当グループの事業は環境ビジネスです。したがって全ての業務が環境に密接に関連しています。廃棄物のリサイクル処理と関連するサービスの提供を通じて、お取引先様ならびに地域社会とのコミュニケーションを深めるとともに、顧客満足度の向上に努め、また微力ながらも環境保全の一助となるよう努力を続けて参ります。

環境管理責任者 山口 博



**株式会社 群桐産業**

〒379-2301 群馬県太田市藪塚町3201  
TEL:0277-78-2479 FAX:0277-78-5084  
URL <http://www.grr.co.jp>



**群桐エコロ 株式会社**

〒370-0351 群馬県太田市新田大町600番26  
TEL:0276-55-0500 FAX:0276-55-0501  
URL <http://www.grr.co.jp/ecologista/>